

戸田みらい基金 活動報告

若手技能者の技術者への育成 およびインターンシップ

活動期間 2019年4月 ～ 継続中

発表日 2020年9月2日

加向建設株式会社

《会社概要》

設 立 : 昭和44年

事業所 : 愛知県名古屋市

事業内容 : 型枠工事業を主とする専門工事業者

1. 背景および当社での取組

▶ 背景 . . .

近年、型枠大工においても職人の高齢化が進み、若手の入職希望者は減少傾向が顕著であり、現状リクルート活動が急務である。

▶ 取組内容 . . .

業界へ興味のある学生に対して、インターンシップを行った。入職者においては、将来像を明確にし目標を持って貰い、適宜、社内若手研修会（年4回程度）を行うことで、各自のモチベーション維持を図る。

《2019年度》

学校へ採用活動を行い、入社希望者を募集

インターンシップ参加者数：10名（高校2年生：8名、技術専門校2年生：2名）

2. インターンシップの概要

▶ 短期インターンシップ（1～2日）

業界について興味はあるが、詳しく知らない学生さん向けです。職業体験を含んだカリキュラムにし、知識を深めて頂く内容としております。

▶ 中長期インターンシップ（1～2ヶ月）

型枠大工に興味があり、深く学びたい学生さん向けに行っております。大工仕事をはじめ、資材や物流等の関わりの深い業務についても、学んでいただける内容としております。

希望する学生には、社宅へ宿泊してもらい、
実際の社員と同等の生活を体験して貰っています。



3. インターンシップの概要

▶ 座学

- ・ 会社案内、建設業の仕事流れ
- ・ 建設業における型枠とはどのような業種なのか
- ・ 使用材料や金物はどのようなものがあるのか

▶ 加工場実習

- ・ 部材の種類や名称、使用方法について学びます
- ・ 型枠が、現場へどのような手順で配送されるかを学びます
- ・ 実際に簡易な型枠の『加工』、『組立』、『ばらし』を行います

▶ 現場見学

- ・ 実際の現場へ行き、どのように組立ていくのかを学びます



4. インターンシップ

座学

加工場実習



加工場実習を終えて、現場見学へ行き、実際の仕事内容を学びます！！

5. 若手技能者向け研修の概要

▶ 1年目 4～6月（3ヶ月程度）

- ・ 新入社員研修（座学） → 加工場実習 → 現場業務
→ 技能士試験練習

大工仕事の実践に向けてステップアップしていきます。

▶ 4月、7月、10月、1月

- ・ 若手技能者一同を集め、安全講習、仕事への考え方などを学びます
- ・ 各自の近況報告、現場の状況等の情報交換も行います

▶ 通年

- ・ 必要な資格の取得を行います

6. 若手技能者向け研修の概要

▶ 新入社員研修、座学 . . .

- ・ 社会人としての基本的な考え方やマナー講習
- ・ 安全への意識を高めるための講習（災害事例等）

▶ 加工場実習 . . .

- ・ 型枠の加工を実践し、学んでいきます
- ・ 実際に現場で使用する部材の準備を行い、使用方法を学んでいきます
- ・ 型枠の『加工』、『組立』、『ばらし』を行います（3級型枠技能士試験同等）

▶ 現場業務 . . .

- ・ 現場へ行き、業務の手順を学びます

▶ 技能士試験演習 . . .

- ・ 年度末にある試験に向けた練習を適宜行い、合格を目指します

7. 若手技能者向け研修

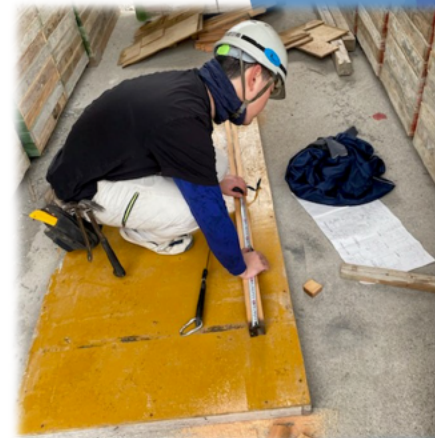
座学（若手技能者講習）



加工場実習



試験演習



8. 活動の成果・効果

《インターンシップ》

- ▶ 学校の進路指導教諭と密なコミュニケーションがとれるようになってきたことで、学生の希望業種や動向を知り得る機会を得た。
- ▶ インターンシップ → 採用 の仕組みが出来たことで、入社後のギャップや不安を取り除く一助となった。

《若手技能者向け研修》

- ▶ 座学 → 加工場実習 → 現場 と段階的な研修を行うことで、自身の技術習得だけでなく、会社全体の流れを知った上で業務を行えるようになった。
- ▶ 年代別の取得目標資格を明確化したことにより、日々の業務へ意欲的に取り組めるようになった。

9. 今後の課題

《インターンシップ》

- ▶ 参加いただいた学生に今後入職して貰えるよう学校との関係を深める。
- ▶ 多くの学校および学生にインターンシップへ参加いただけるよう周知活動(学校への訪問)を行い、採用の拡充を図る。
- ▶ 型枠業界へ、より一層入職したくなるようなカリキュラムの構築を行う。

《若手技能者向け研修》

- ▶ 若手技能者自身で考え、目標をより明確化させる。
(何年目にどんな仕事をしていきたいか、どの資格を取得するか)。
- ▶ 目標に向かって必要な技術・知識が何かを理解させることで今なにをすべきか、自発的に考え学ぶ姿勢を持たせる。

助成金を活用させて頂き、誠にありがとうございました。